

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-119348

(43) 公開日 平成11年(1999) 4月30日

(51) Int.Cl.⁸

識別記号

F I

G 0 3 B 27/46

G 0 3 B 27/46

B 6 5 D 27/00

B 6 5 D 27/00

S

G 0 3 D 15/10

G 0 3 D 15/10

B

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号

特願平9-283527

(22) 出願日

平成9年(1997)10月16日

(71) 出願人 000005201

富士写真フイルム株式会社

神奈川県南足柄市中沼210番地

(72) 発明者 辻 淳一

神奈川県足柄上郡開成町宮台798番地 富

士写真フイルム株式会社内

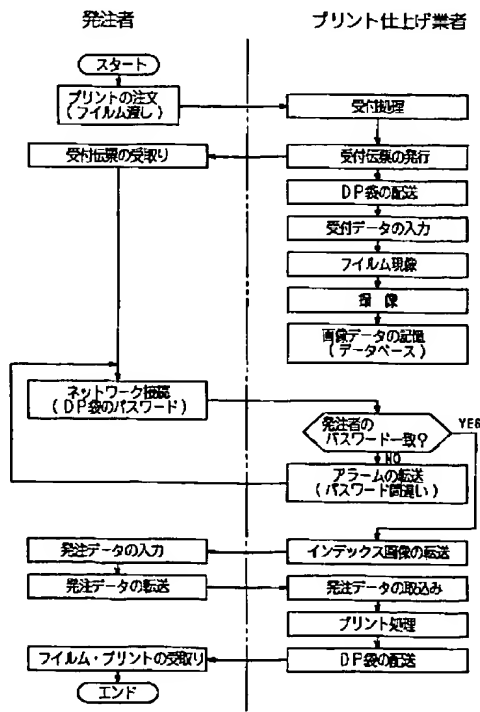
(74) 代理人 弁理士 小林 和憲

(54) 【発明の名称】 プリント発注方法及びDP袋

(57) 【要約】

【課題】 DP受付店に出向く回数を少なくするとともに、必要なコマのみをプリントする。

【解決手段】 DP袋と受付伝票とにネットワークでのプリント発注用のパスワードを記入しておく。発注者は受付店に出向き、写真フイルムカートリッジを提出してネットワーク発注を依頼する。受注者はフイルム現像とこの現像済みフイルムの画像の取り込みとを行いこれを記憶しておく。発注者は受付伝票のパスワードを用いてネットワークに接続して現像済みの画像を参照し、プリントの発注を行う。店頭で2度出向くだけで、必要なコマのみをプリントすることができる。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 受注者が、発注者から写真フィルムを受け取るとともに、DP袋と受付伝票に注文内容を記入して前記受付伝票を発行し、写真プリントの注文処理を行うプリント発注方法において、

前記DP袋と受付伝票とにネットワークを介してのプリント発注用のパスワードを記入しておき、受注者はフィルム現像とこの現像済みフィルムの画像の取り込みとを行い、発注者は前記受付伝票のパスワードを用いてネットワークに接続して前記画像を参照し、写真プリントの発注を行うようにしたことを特徴とするプリント発注方法。

【請求項2】 受付伝票を有するDP袋において、前記受付伝票及びDP袋に、ネットワークを介してのプリント発注を行うためのパスワードを記録することを特徴とするDP袋。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明はプリント発注方法及びDP袋に関するものである。

【0002】

【従来の技術】現在の写真プリントシステムでは、撮像済みフィルムを現像及びプリントするために、DP（同時プリント）受付店等に持ち込んでDP処理を依頼し、受付時に指定された受渡し日時以降にプリントを受けとっている。このとき、受付店では、DP袋に複数枚数綴じられた複写機能を有する受付伝票に受付内容を記入することで受付処理を行い、最上層の受付伝票を剥がして注文者に渡す。そして、この渡された受付伝票により仕上がったプリントやフィルムの受け渡しを行っている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】したがって、プリント処理の依頼と受取のために、DP受付店等に2度にわたって出向く必要がある。更に、焼増しプリントやトリミングプリント等を注文する場合には、再度DP受付店に出向く必要があり、しかもこの注文したプリントを再度受け取りに出向く必要もある。このように、焼増しプリント等を注文する場合には、DP処理の受け取りの際に行うときには3度、通常はDP処理の注文と受け取り、及び焼増し注文と受け取りとのために受付店に4度出向く必要があり、面倒であった。

【0004】本発明は上記課題を解決するためのものであり、何度も受付店に出向く必要もなくプリントの焼増し等が簡単に行えるようにしたプリント発注方法及びDP袋を提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、請求項1記載のプリント注文方法は、DP袋と受付伝票とにネットワークを介してのプリント発注用のパスワードを記入しておき、受注者はフィルム現像とこの現

2

像済みフィルムの画像の取り込みとを行い、発注者は前記受付伝票のパスワードを用いてネットワークに接続して前記画像を参照し、写真プリントの発注を行うようにしたものである。また、請求項2記載のDP袋は、受付伝票を有するDP袋において、受付伝票及びDP袋に、ネットワークを介してのプリント発注を行うためのパスワードを記録するものである。

【0006】

【作用】受付伝票及びDP袋には、ネットワークを介してのプリント発注を行うためのパスワードが記録されている。ネットワークを介してのプリント発注が希望された注文の場合には、フィルムの現像後に同時プリントが行われることなく、各コマの撮像が行われる。そして、この撮像された画像データは受付番号毎に画像メモリに記憶される。発注者は、パスワードを用いてネットワークに接続し、現像済みの自己の画像を参照する。そして、画像を見ながら、プリント枚数、プリントサイズ等の発注データを入力する。この発注データは受注者に送信される。受注者はこの発注データに基づき写真フィルムのプリント対象コマを特定しプリントを行う。得られたプリントとフィルムとは発注者に受け渡される。

【0007】

【発明の実施の形態】図1は、本発明のDP袋である。DP袋10には、周知のように4枚複写となっている受付伝票綴り11が貼りつけられている。この受付伝票綴り11の最上層の伝票は発注者用受付伝票12とされており、受付処理時に受付内容を手書きした後に発注者に渡される。2枚目の伝票は受付時の受付店控え用伝票13とされており、3枚目の伝票は現像所控え用伝票14とされており、4枚目の伝票は受け渡し時の受付店控え用伝票15とされている。なお、受付伝票綴り11の各伝票の種類及び枚数は上記に限定されることなく、流通経路に応じて適宜変更されて使用される。

【0008】各伝票12～15及びこれら伝票12～15が貼られたDP袋10の裏面10aには、それぞれ同じ位置で、発注者特定欄20、受付等の日時欄21、受付処理内容欄22、請求金額欄23、受付店名欄24、受付番号・パスワード欄25、備考欄26などが配置されており、これらに手書きやドットインパクトプリンタ50（図2参照）によるプリントが行われる。これら手書きやプリントされた文字は受付伝票12よりも下層の伝票13、14及びDP袋10の裏面10aに感圧複写される。

【0009】前記発注者特定欄20には、発注者の名前、連絡先電話番号が受付時に記入される。また、受付等の日時欄21には、受付時に受付日時が記入される。同時プリント等の注文の際には仕上がりが予定日時が記入される。更には、ネットワーク発注が選択された場合には、発注可能予定日時等が受付時に記入される。受付処理内容欄22には、「同時プリント」、「現像のみ」、

3

「焼増し」、「ネットワーク発注」、「白黒」、「リバーサル」の処理内容や、各フィルムメーカー、規定撮影枚数、35mm、APS（IX240タイプ）、パノラマ、混在、ブローニー等のフィルム種別などが印刷されており、受付時に対応する処理内容に○をつけるようになっている。請求金額欄23には、品名、数量、単価、金額等の記入欄が設けられており、プリント処理後にドットインパクトプリンタにより、請求金額の内容が印字される。

【0010】受付店名欄24には受付店名、受付店コード番号、及び電話番号が、受付番号・パスワード欄25には受付番号27及びパスワード28が、ドットインパクトプリンタ50により予めプリントされている。受付番号27は一連の番号が順番に用いられる。また、パスワード28は、英数字を用いた例えば10桁の順列から構成されており、これらが受付番号順に連続することのないようにアランダムに用いられる。また、一度発行されたパスワード28はパスワードの順列総数が終わるまでは再発行されることはなく、同一パスワードによる混乱が発生することがない。このパスワード28は後に詳しく説明するように、ネットワークを介してプリント発注を行うときに用いられ、受付処理を行った発注者か否かが判定される。

【0011】DP袋10の裏面10aで、受付伝票綴り11の下方には、店コード、受付番号、パスワードの各バーコード記入欄30、31、32が設けられており、この欄内に各バーコード33、34、35がドットインパクトプリンタ50によりプリントされている。これらバーコード33～35は、受付処理やプリント処理、集配処理の際に読みだされ、これら各処理時のオーダーの識別等に利用される。受付店名、受付番号27、パスワード28やこれらのバーコード33～35等のDP袋10へのプリントは、プリント仕上げ業者42のドットインパクトプリンタ50により定期的に行われ、作成されたDP袋10はDP受付店に配られる。

【0012】図2は、本発明のプリント発注方法で用いるシステムの一例を示す概略図である。発注者（ユーザー）40側にはパソコン41が設けられている。また、受注者としてのプリント仕上げ業者42側には受付用ワークステーション43、大容量の記憶装置44、フィルムプロセッサ45、フィルムスキャナ46、プリンタ47、48、49及びDP袋印字用のドットインパクトプリンタ50が設けられている。受付用ワークステーション43は、受付処理データを入力するためにディスプレイ43a、バーコードリーダー43b及びキーボード43cを備えている。

【0013】発注者40側のパソコン41は、周知のように、パソコン本体、キーボード、マウス、ディスプレイ、ハードディスク装置、モデム等から構成されている。前記モデムには有線又は無線の電話回線53が接続

4

されている。この電話回線53を介して、パソコン41は、パソコン通信ソフトによりプリント仕上げ業者42のデータベース52に接続される。パソコン通信ソフトには、周知のように接続の前に接続IDコードとパスワードとの入力が必要となるようになっており、この時、接続IDコードとして受付伝票12に記録されている受付番号27が、またパスワードとして受付伝票12に記録されたパスワード28が入力される。

【0014】プリント仕上げ業者42側の受付用ワークステーション43も、基本的には発注者40側のパソコン41と同じ構成となっているが、扱うデータ量が多いため、高性能及び高速なコンピュータからなるシステム構成になっている。この受付用ワークステーション43には、周知のデータベースソフトが組み込まれており、ワークステーション43と記憶装置44とモデム51とによりデータベース52が構築されている。また、このワークステーション43にも、発注者側のパソコン通信ソフトに対応する通信ソフトがインストールされている。この通信ソフトは、発注者からの接続IDコードとパスワードとが、データベースに記憶されているものと一致する場合には接続を許可し、発注処理を可能にする。

【0015】DP袋10が各DP受付店から配送されると、受付用ワークステーション43を用いて受付データが入力される。受付データの入力では、受付処理内容と受付番号とパスワードとフィルムIDコード（フィルム識別コード）とを対応させてデータベース51に記憶する。まず、バーコードリーダー43bにより、DP袋10に記録されたそれぞれのバーコードを読み取ること
30で、受付番号27とパスワード28とが入力される。また、発注者氏名及び電話番号はキーボード43cからオペレータの操作により入力される。また、写真フィルムカートリッジがDP袋10から取り出され、カートリッジに付されたフィルムIDコードがバーコードリーダー43bにより読み取られ、データベース52に記憶される。

【0016】本実施形態ではIX240タイプの写真フィルムカートリッジを用いており、このIX240タイプは周知のようにフィルム面に透明磁気記録層が形成されており、この透明磁気記録層にはフィルムIDコードやDXコードの他に、撮影データやプリント指示データ等が磁気記録されている。また、IX240タイプのカートリッジの外面には、フィルムIDコード及びそのバーコードを記録したラベルが貼られている。なお、135タイプフィルム等のように、磁気記録層を持たないフィルムでは、従来と同じようにチェックラベルを用いてDP袋とフィルムとを関連づける。例えば、DP袋10から店コードと受付番号とを読み取り、これらの例えば下3桁を組み合わせたフィルム識別コードを作成する。
50そして、フィルム識別コードとこのバーコードとをラ

ベルに印刷してチェックラベルを作製し、これらを写真フィルム及びDP袋に貼りつけることで、各オーダーとフィルムとの対応を図る。また、チェックラベルをDP袋の店コードや受付コードに基づき個別に作製する代わりに、予め作製しておいた同一番号及びこのバーコードを記録した3枚組のチェックラベルをDP袋、フィルムカートリッジ、写真フィルムにそれぞれ貼りつけることで、これらの対応を図るようにしてもよい。

【0017】受付処理後は、DP袋10から写真フィルムカートリッジが取り出され、フィルムプロセサ45で現像処理される。この現像処理は、周知のように多数のオーダーの写真フィルムをスプラステープを用いて接合し長尺化して行われる。なお、長尺化する代わりに、個別又は複数個単位で現像処理してもよい。

【0018】現像処理された写真フィルムは、受付処理の内容に応じてプリント処理が行われる。従来のように同時プリントが指定されたオーダーに対しては、写真プリンタ47を用いて各コマの画像が感光材料に焼付露光され、この感光材料が現像処理されることで、プリント写真が作成される。ネットワーク発注が指定された写真フィルムは同時プリントは行われずに、フィルムの現像後にフィルムスキャナ46により各コマの画像が読み込まれる。読み取った画像データは、フィルムIDコードに基づき、データベース52に記憶される。データベース52に記憶された画像データは、フィルムIDコード、受付コード、パスワードを検索キーとして読み出すことができる。

【0019】発注者40は受付伝票12に記載されたプリント発注可能日時以降に、パソコン41によりプリント仕上げ業者42のデータベース52に接続して、プリントの発注処理を行う。この発注処理では、発注者側のパソコン41は、発注のためのインデックス画像データをプリント仕上げ業者42のデータベース52から受け取る。発注者側のパソコン41は、このインデックス画像データに基づきをディスプレイにインデックス画像を表示する。

【0020】図3にインデックス画像60の一例を示す。インデックス画像60は、図示のように各コマ61を4コマ1画面として、ページ単位で表示される。インデックス画像60の右上にはページ数62とページめくりボタン63とが配置されている。なお、1ページの表示コマ数は4コマに限定されることなく、6コマ1画面や、2コマ1画面など適宜コマ数を変更してよい。また、インデックス画像60の上側には、タイトル64及び説明65が表示される。説明文65では、プリント仕上がり日時が表示される。なお、説明文65には、この他に、料金やプリント発注の一覧表を表示させてもよい。

【0021】インデックス画像60の各コマ61の下方にはコマ番号66と発注データ入力部67とが設けられ

ている。発注データ入力部67は、プリント枚数指定枠68、プリントサイズ指定枠69、プリント方式指定枠70から構成されており、各コマ61に対して各種プリント注文の指定が可能になっている。

【0022】プリント枚数指定枠68には、デフォルトで「1」の数字が入力されており、例えば3枚プリントしたい場合には、指定枠68の右端に表示されている増減ボタン68a、68bをマウスでクリックすることにより表示数字を「3」に変更する。なお、マウスを用いた入力の他にキーボードにより直接入力してもよい。また、プリント不要コマに対してはプリント枚数を「0」にする。

【0023】プリントサイズ指定枠69には、デフォルトでC（標準サイズ）が入力されており、これを例えばP（パノラマサイズ）に変更する場合には、指定枠69の右端に表示されている変更ボタン69aをクリックする。これにより、プリント可能なサイズがこの指定枠69の下方に一覧表示される。この一覧表示の中から、「P（パノラマサイズ）」をクリックすることにより、プリントサイズ指定枠に「P（パノラマサイズ）」が入力される。プリント可能なサイズとしては、「C」、「P」、の他に、「H（迫力サイズ）」、「キャビネサイズ」、「A4サイズ」、「ポスターサイズ（A2）」、「ポスターサイズ（A1）」、「ポスターサイズ（A0）」などがある。

【0024】プリント方式指定枠70には、デフォルトで「フィルムプリント」が入力されており、変更ボタン70aをクリックすることにより、「トリミングプリント」、「デジタルプリント」の選択が可能になっている。フィルムプリントでは写真フィルムを用いて写真プリンタ47によりプリントされる。

【0025】トリミングプリントでは、プリント対象コマの画像が画面に表示され、この表示画面に対してトリミング枠を表示して、表示画面内でこのトリミング枠を移動させてトリミングを決定する。このときのトリミング枠サイズ及び位置情報がトリミング情報とされる。

【0026】デジタルプリントでは、「マルチプリント」、「シールプリント」、「インデックスプリント」、「合成プリント」、「階調補正プリント」、「ポスターサイズプリント」等を変更ボタンの操作により選択することができる。

【0027】マルチプリントは1つの画面内に複数個のコマを表示したもので、表示例を選択することで、同一コマや複数コマが1つの画面内に複数個表示される。シールプリントは剥離紙に貼り付けられており、剥がして他のものに貼り付けて使用するもので、多くはマルチプリントと併用される。インデックスプリントは1本の写真フィルムの全コマを一覧に表示したものである。

【0028】合成プリントでは、多数の合成対象画像が表示され、これら合成対象画像を選択することで、合成

10

20

30

40

50

対象画像にプリント対象コマの画像が嵌め込み合成される。嵌め込み合成写真を観察してこれでよければ、プリント対象コマ番号と、合成対象画像番号とが特殊プリント指定情報とともに、仕上げ業者に送られる。嵌め込み合成画像は、背景、前景、人物画像、キャラクター画像等の種々のものがあり、定期的に更新される。

【0029】階調補正プリントでは、暗部がつぶれたコマや白くとんだコマを適正な階調に補正する。この階調補正量の入力には周知の写真修正ソフトが用いられ、階調補正量を入力することで、この入力値に応じてプリント対象画像の階調が変化し、最適な階調となる補正值を決定することができる。

【0030】上記発注データ入力部67で各種プリントデータが入力され、これが決定されると、プリント仕上げ業者の受付用ワークステーションにこの発注データがデータ送信される。この発注データにより、フィルムプリント及びトリミングプリントが指示されると写真プリンタ47が選択され、これを用いてプリントが行われる。この写真プリンタ47では、写真フィルムの透過光を用いて銀塩式感光材料を焼付露光し、これを現像処理することによりプリント写真を得る。

【0031】また、デジタルプリントが指示されると、レーザー光を走査して感光材料を焼付露光するレーザー露光式のデジタル写真プリンタ48が選択され、これによりプリントが行われる。露光済みの感光材料は熱現像転写され所定のプリントが作成される。なお、熱現像転写方式に変えて銀塩式感光材料を用いて、写真プリンタと同じようにペーパープロセサを用いて現像処理してもよい。

【0032】また、デジタルプリント中のポスターサイズプリントが選択されると、インクジェットプリンタ49が用いられ、ポスターサイズのプリントが作成される。なお、デジタルプリントが指定された場合には、ネットワーク発注用とは別個にフィルムスキャナ46により高解像度でプリント対象画像が走査される。そして、この高解像度画像データを用いてデジタルプリントが作成される。

【0033】これらのプリント処理はプリント工程表に基づきオペレータが各種プリンタを操作してプリントを行う。プリント工程表は、受付用ワークステーション43が受付処理状況に基づき作成する。

【0034】1件分のプリントが終了すると、ドットインパクトプリンタ50によりDP袋10の請求金額欄23に請求金額がプリントされる。仕上がったプリントと写真フィルムとは照合された後にDP袋10に装填される。なお、DP袋10に入らないポスターサイズ等のプリントの場合には別の納品袋や納品筒に入れられ、DP袋10と一緒にされる。これらのDP袋10等は受付店コードに基づき各受付店に送られる。受付店では、発注者が提出した受付伝票12と引き換えに対応するDP袋

10等を発注者に引き渡す。

【0035】次に、図5を参照して、本実施形態の作用を簡単に説明する。発注者40はDP受付店に撮影済みの写真フィルムカートリッジを持ち込み、プリント注文を依頼する。プリント注文を行うと、DP袋10の受付伝票綴り11に発注者の氏名、電話番号、処理内容等が書き込まれる。そして、最上層の受付伝票12が剥がされ、これが発注者40に仕上がりプリントの引き換え票として渡される。受付られた写真フィルムカートリッジはDP袋10に挿入され、プリント仕上げ業者に配送される。

【0036】プリント仕上げ業者は配送されたDP袋10を各プリント処理内容毎に仕分ける。本発明のネットワーク発注が選択されたプリント処理の場合には、フィルムプロセサ45でフィルム現像が行われた後に、フィルムスキャナ46で各コマの画像が撮像される。この撮像した画像は、フィルムID番号に基づきデータベース52に記憶される。データベース52は、フィルムID番号の他に、受付番号、発注者氏名、電話番号、パスワード等が検索キーとなっており、これら検索キーを用いて該当する画像データを取り出すことができる。

【0037】発注者40は受付伝票12に記載された発注可能予定日時を経過した後に、プリント仕上げ業者42のデータベース52に接続する。この接続のときに、受付伝票12の受付番号27を接続IDコードとし、受付伝票12のパスワード28をネットワーク接続のパスワードとして入力する。プリント仕上げ業者42のデータベース52には、受付番号27とパスワード28とが組になって記憶されており、これらの組み合わせと、接続により転送された受付番号27及びパスワード26の組み合わせとが一致したときに、接続中のものを受付処理を行った発注者40と判定して、ネットワーク接続を許可する。また、発注者側からのインデックス画像データの転送要求により、インデックス画像60用データを作成し、これを発注者側のパソコン41にデータ転送する。

【0038】発注者側のパソコン41では、このインデックス画像60を参照して、プリント注文したい画像の発注データ入力部67を用いて希望するプリント内容を入力する。入力された発注データは、プリント仕上げ業者42のデータベース52に受付番号27に基づき記憶される。ワークステーション43は受け付けた発注データに基づきプリント工程表を作成する。オペレータはこれに基づき発注データの内容のプリントを行う。作成されたプリントはDP袋10や必要に応じて納品袋等に入れられ、受付店に送られる。また、プリント工程表に基づき仕上がり納期が予測され、この仕上がり納期が発注者側のパソコンに表示される。発注者はこの仕上がり納期に基づき受付店に出向きフィルムとプリントとを受けとる。

【0039】上記実施形態では、ネットワーク発注でプリントを指示するようにしたが、この他に、プリントを行うことなく、指定した画素サイズでプリント対象コマの画像を読み取り、これを指定した記録媒体例えばCD-ROMやICメモ리카ード、MO等に記録してもよい。また、記録媒体に記録する代わりにネットワークを介して発注者に直接に画像データを送るようにしてもよい。この場合には、周知のJ P E G (Joint Photographic Experts Group) 圧縮等を行ってデータ転送を行うとよい。また、本発明のDP袋を焼増し注文に用いてもよい。この場合には、ラボ側ではフィルム現像することなく、各画像をスキャナ等で取込み、ネットワークを介してプリントの発注を受け付ける。

【0040】上記実施形態では、発注者は、受付伝票12に記入された発注可能日時を過ぎてから、プリント仕上げ業者42のデータベース52に接続して、発注処理を行うようにしたが、この他に、プリント仕上げ業者42側で、フィルム現像とこれに続く画像の取り込みを終了したときに、予め電子メールアドレスの登録があった発注者に対しては、発注者に発注可能電子メールを送付してもよい。また、受付伝票12を受け取った後に、プリント仕上げ業者42のデータベース52にパスワード28を用いてアクセスして発注者登録を行い電子メールアドレスを登録した場合には、発注可能電子メールを送る代わりに、注文用インデックス画像データを発注可能電子メールとともに発注者に送付してもよい。

【0041】上記実施形態では、発注者を特定するために受付番号27とパスワード28とを組にして記憶しておくことで発注者40を特定するようにしたが、この他に、発注者氏名や電話番号とパスワードとの組み合わせにより、発注者40を特定してもよい。更には、第1回のプリントの注文の際に、発注者識別データを発注者40に付与しておき、次回以降のプリントの際には、この発注者識別データとパスワードとの一致により、発注者40を特定してもよい。この場合には、発注者特定欄に発注者識別データ記入欄を設けておくともよい。また、発注者氏名や電話番号を用いて、データベース52から発注者識別データを検索してもよく、この場合には、写真受付時には、発注者識別データを特別に書き込む必要もなく構成が簡単になる。

【0042】上記実施形態では、パソコン通信ソフトによりプリント仕上げ業者のデータベースに直接に接続してプリント発注を行うようにしたが、この他にインターネットを介してプリント発注してもよい。この場合には、周知のWWWブラウザを用いて、プリント仕上げ業者のホームページに接続し、パスワードを用いて、発注者のみが接続可能なプリント対象インデックス画像のページに入り、ここで、上記と同一ようなプリント指定枠を用いて、プリント指定データを入力する。

【0043】また、ネットワーク発注データを受け取っ

た時に、ワークステーション13では、ネットワーク発注データに基づきプリント料金を算出し、オンラインでプリント料金を表示するようにしてもよい。

【0044】上記実施形態では、プリント工程表を見ながらオペレータがマニュアルでプリント処理を行うようにしたが、この他に、オートフィルムハンドリング装置を用いて、各プリントを自動的に行うようにしてもよい。この場合には、フィルム現像及び撮像が終了した時点でフィルムリザーバにフィルムを各オーダー毎に収納する。そして、ネットワーク発注データが得られたフィルムをフィルムリザーバから取り出して、これをオートフィルムハンドリング装置で該当する機器にセットして、写真プリントや高解像度読み取りを行い、発注データに対応したプリントを行う。また、ネットワーク発注データをプリント対象コマの磁気記録層に磁気記録してもよく、この場合には、各機器で磁気記録層からネットワーク発注データを読みだして、この発注データに基づき対応するプリント処理を行う。

【0045】上記実施形態では、家庭内に設置されたパソコンを用いて発注データを入力するようにしたが、この他にポケットサイズの情報処理端末やノートサイズパソコンを用いて、ネットワークやデータベースに接続し、発注データを入力してもよい。

【0046】なお、受付伝票綴り11を有するDP袋10を用いたが、DP袋10と受付伝票綴り11とは別体としたものであってもよい。この場合には、いずれか一方に予めパスワードを記録しておき、受付処理の際に、他方に同じパスワードを記録するとよい。

【0047】

【発明の効果】本発明では、DP袋と受付伝票とにネットワークを介してのプリント発注用のパスワードを記入しておき、受注者はフィルム現像とこの現像済みフィルムの画像の取り込みとを行い、発注者は受付伝票のパスワードを用いてネットワークに接続して前記画像を参照し、プリントの発注を行うようにしたから、従来のように店頭に出向いてプリント写真の仕上がりを確認後に焼増し注文をする必要がなく、店頭に出向く回数を少なくすることができる。しかも、仕上がりを確認して最良のものをプリント発注することができ、無駄のないプリントを行うことができる。また、仕上がりを確認した後に、補正や各種形態のプリントを指示することもでき、より好ましいプリントを簡単に得ることができる。

【0048】受付伝票及びDP袋に、ネットワークを介してのプリント発注を行うためのパスワードを記録したから、このパスワードを用いることで、本人確認を容易に行うことができる。しかも、予めパスワードを受付伝票及びDP袋に記録してあるので、受付の際にその都度パスワードを発行する必要もなく受付処理を簡単に行うことができる。更に、単にパスワードを記録しただけで

あるから、従来の同時プリントやその他のプリントに対しても本発明のDP袋を用いることができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明のDP袋を示す正面図である。

【図 2】 プリントの発注システムを示す概略図である。

【図 3】 ネットワーク発注のためのインデックス画像の一例を示す説明図である。

【図 4】 発注データ入力部の一例を示す説明図である。

【図 5】 本発明のプリントの発注方法の処理手順を示すフローチャートである。

【符号の説明】

1 0 DP袋

1 1 受付伝票綴り

1 2 受付伝票

2 5 受付番号・パスワード欄

2 6 受付番号

2 7 パスワード

3 0～3 2 バーコード記入欄

3 3～3 5 バーコード

4 0 発注者

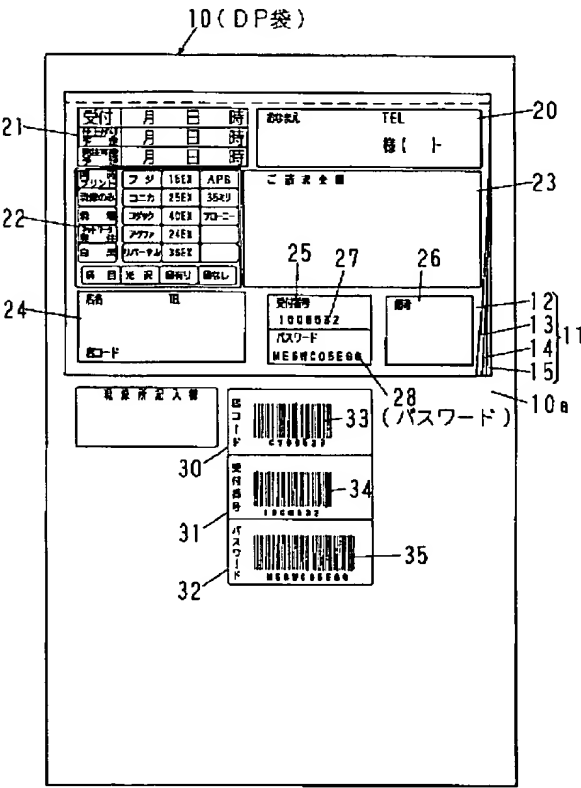
4 1 パソコン

10 4 2 プリント仕上げ業者（受注者）

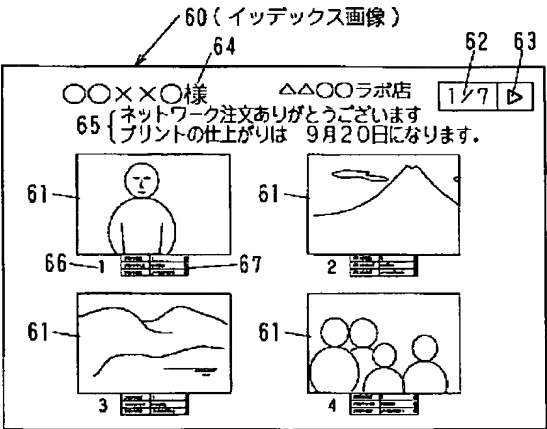
4 3 ワークステーション

5 2 データベース

【図 1】



【図 3】

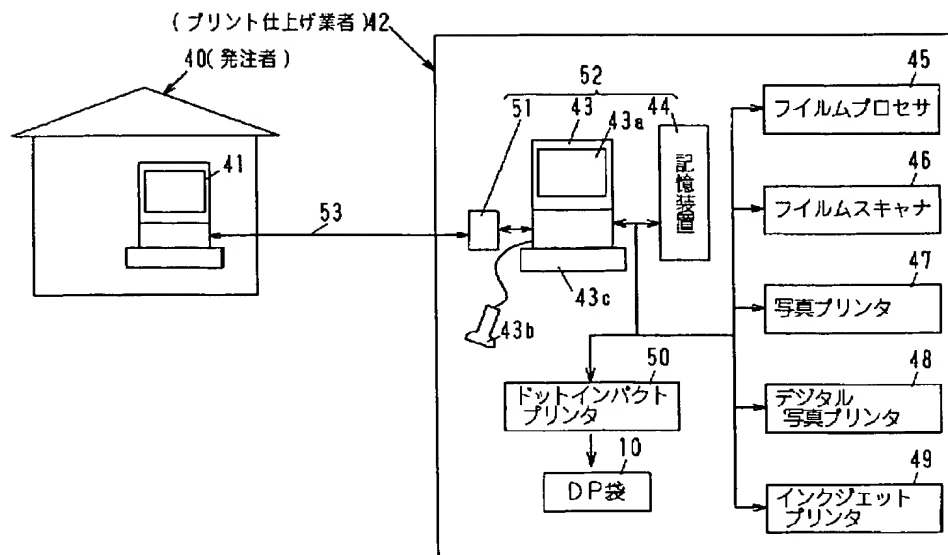


【図 4】

67 (発注データ入力部)

68	プリント枚数	1	68a
69	プリントサイズ	C (標準サイズ)	68b
70	プリント方式	フィルムプリント	69a
			70a

【図 2】



【図 5】

